

佐野川複合岩体に貫入する安山岩岩脈より採取された、レルゾライトのゼノリス

Lherzolite xenolith in andesite dykes that intruded to the Sanogawa complex mass

金 容義 [1]; 新井田 清信 [2]; 坂本 泉 [3]; 東 豊土 [4]

Yong Ui Kim[1]; Kiyooki Niida[2]; Izumi Sakamoto[3]; Toyoto Azuma[4]

[1] 東海大・海洋・海洋資源; [2] 北大・理・地球惑星システム; [3] 海洋研究機構 CDEX; [4] 北大・理・地球惑星

[1] Marine Sci.Tokai Univ.; [2] Earth and Planetary System Sci., Hokkaido Univ; [3] JAMSTEC/CDEX; [4] Earth and Planetary Sci., Hokkaido Univ

佐野川複合岩体に貫入する安山岩・玄武岩岩脈には、従来からクロム透輝石を含むことが報告 (Kuno, 1957) されている。また安山岩岩脈には、輝岩・斑レイ岩・紅砒ニッケル鉱がゼノリスとして含まれている (金・管野・木村, 2003)。

この地域は、糸魚川 静岡構造線に伴う断層の多いテクトニクス場である。南北方向に、花崗斑岩が岩株状岩体として分布している。安山岩・玄武岩岩脈は、花崗斑岩に貫入して形成している。花崗斑岩の年代は、 $18,0 \pm 4,4\text{Ma}$ であり、安山岩のゼノリスである輝岩の年代は、 $4,3 \pm 0,5\text{Ma}$ である。

レルゾライトのゼノリスは、径数mm大から4cmであり、かんらん石を主に含み、OPX・辰砂をともなう。Kuno (1957) は、 Cr_2O_3 ; 0.56% に対して、 Al_2O_3 ; 0.68% と低い値をしめすクロム透輝石を報告した。対比としてカンラン岩マグマ由来のクロム透輝石を検討したが、佐野川地域に、かんらん岩の分布のないことより検討課題になっていた。今回、発見されたレルゾライトは、クロム透輝石の形成にたいして、指針を与える。